

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2014年 6月 20日 広報センター

No. 3

平成26年6月6日「特定非営利活動法人設立認証書」が届きました！

『ふろんていあタウン工房』本格スタート宣言

□ やっと本格スタートです

「UR ワンダーフォーゲル同好会」が、設立40周年記念事業として昨年3月に行った第1次ミャンマー遠征ビクトリア山登山でスタートした「**MT.VICTORIA PROJECT**」、このプロジェクトを「ワンゲル同好会」から引き継いだ「ふろんていあタウン工房」は、第2次現地調査隊を今年3月に派遣、NPO 法人設立に手間取り「準備室」のまま発行した「ふろたん通信」の創刊号（2014.2.26）で壮行会の案内、帰国報告は第2号(4.4)に掲載しました。

その後再縦覧を経て、6月6日に東京都から設立認証書が届き、法人登記書類を整えて16日（大安吉日）に法務局に提出、**NPO 法人 ふろんていあタウン工房**がやっと本格スタートとなりました。



□ 会員拡大活動 への取り組み

2月の「ふろたん通信」創刊号では、NPO 法人発足に向けた体制づくりとして広報活動を積極的に推進し、まず会員拡大活動に取り組むことを呼びかけました。

「**MT.VICTORIA PROJECT**」のリーフレットを作成し、「賛助会員（個人・団体）」の勧誘を進めてきましたが、設立を機に皆で「仲間づくり」に一層力を注ぎましょう。

□ 第2次調査隊メンバーの報告会

赤川調査隊長からの報告は、帰国当日ハードインタビューとして「通信」第2号でお伝えしましたが、5月22日には、調査隊に参加いただいた森角武久さんと三宮満雄さんからの報

告会が、NPO 法人まちナビ倶楽部の定例会で開催されました。ふろんていあタウン工房メンバーにも事前連絡し、希望者数名で報告会+懇親会に参加しました。第2次調査隊の一番の目的は「ナマタン国立公園事務所」への協力体制づくり、辺境の地での持続的な活動をどのように進めるかなど、懇親会の席では色々な質問・アイデアが交錯しました。

□ 日本の旅行社との連携

リーフレットの「ビクトリア山プロジェクト」ロードマップ（行程表）に、〔STAGE I〕の取り組みとして〔ナマタン国立公園事務所に協力〕と並べて掲げているのは、〔日本の旅行社と連携〕です。辺境の地での持続的な活動をフォローアップする体制づくりには、旅行社との連携が不可欠と考えているからです。

第1次のビクトリア山登山以来、ピース・イン・ツアーと連携・協力して「ビクトリア山プロジェクト」を進めてきましたが、最近の状況について八井さんから報告がありましたので掲載します。

『**現地パートナーの来日**』：6月にピース・イン・ツアーの現地パートナーGLOBAL TRAVEL SERVICE (G.T.S Tour) の代表ジョンソン・リー氏が、ミャンマーより来日しました。G.T.S Tour は1996年にヤンゴンで設立され、ピース・イン・ツアーとは15年以上の付き合いとなるミャンマーでも老舗の旅行会社です。

6月4日、ビクトリア山プロジェクトについて、室井さんからお預かりした作成中の地図等の資料をお渡しし、現在の進捗状況、今後の活動の方向性等について情報交換をしました。リー氏自身も、この活動に、大変興味を示しており、現地の旅行会社の代表として、チン州の国立公園スタッフやホテルオーナーの意識改革に力添えができればと話しています。



チン州は、ミャンマー国内でもなかなか電話が繋がりにくい地域となり、（特にこれからの雨季は電波状況が悪くなるようです。）何かと難しい地域ではありますが、まずは、地図の入手ができるよう、現地側での関係機関への働きかけを再確認いたしました。

チン州でのこういったツアーアレンジはピース・イン・ツアーとしても初の試みとなりますが、現地パートナーと一丸となり、プロジェクトの成功を目指したいと思っております。（八井記）』

6月6日現在の会員メンバー「**正会員**」：室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩 高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志 山本稔（12名）「**賛助会員（個人）**」：安田重雄 川添修 岩本善恵 牛久保亮一 小平和司 高橋修司 青柳志郎（7名）「**賛助会員（団体）**」：（株）ピース・イン・ツアー（八井麻由美）（株）アルテップ（荒川俊介）（有）プラティ・アソシエイツ（深島一郎）（3社）